

西宮市大谷記念美術館における運営改善の進捗状況について (令和5年3月時点)

はじめに

西宮市大谷記念美術館（以下、「大谷記念美術館」という。）は、市が故大谷竹次郎氏（元昭和電極社長）より土地・建物、美術作品の寄贈を受け、昭和47年に美術館を運営するための財団法人を設立し、市の美術分野における文化施策の中心的な施設の一つとして運営費を補助してきました。

平成25年には大谷記念美術館が公益財団法人に移行し、収益事業の廃止による収入の減少や人件費等の上昇により維持管理経費が増加するなど単年度収支が悪化しました。こうした中、市は、令和2年度に大谷記念美術館の持続的発展に向けた運営基盤の強化のため、市との連携を強化するほか、利用者・市民・地域との関係を広げていくことや、支出削減に取り組むとともに市の補助金以外の新たな資金の確保に努めることなどを運営改善方針としました。これらに基づき、大谷記念美術館には継続して運営改善に取り組むことを要請しており、その主な進捗状況を公表するものです。

進捗状況

区分	取組内容	進捗状況 (R5.3時点)
市と連携強化	(大谷記念美術館運営検討委員会の設置) 大谷記念美術館の運営や課題について、市と大谷記念美術館が協議・連携、情報交換を行う場として、市と美術館で構成する「大谷記念美術館運営検討委員会」を設置し、定期的に協議等を行っている。	R2年度設置済 ／継続実施
教育活動の充実など市民との接点を広げる	(SNSの活用等広報の充実) 各種SNSに、展覧会の情報のほか、日ごろ美術への関心が薄い市民にも美術館の魅力を知ってもらえるよう、庭園や屋外作品も紹介している。 ・各SNSのフォロワー状況 (R5.1.31時点) … Instagram2,247件、Facebook1,676件、X880件	実施済 ／継続実施
	(アウトリーチ事業等の受け入れ) 市の文化芸術アウトリーチ事業を受け入れ、地域の子供たちが直接芸術に触れ、また、わかりやすく学芸員が解説することで新たな興味・発見を促すようなプログラムを提供している。 このほか、隣接する香櫨園小学校の全学年の団体見学を受け入れている。 ・アウトリーチ事業の受入件数 (R4年度) …8校、910人	実施済 ／継続実施

区分	取組内容	進捗状況 (R5.3 時点)
教育活動 の充実な ど市民と の接点を 広げる	<p>(学芸員による作品解説等)</p> <p>令和4年度からはコロナ禍で中止・縮小していた講演会、ギャラリートーク等を再開・拡充した。</p> <p>・講演会、ギャラリートーク等の実施回数 (R4 年度) …12 回</p>	R4 年度から 再開・拡充 ／継続実施
	<p>(西宮ゆかりの事業)</p> <p>西宮ゆかりの作家を紹介する企画を継続して実施している。</p>	実施済 ／継続実施
	<p>(コレクションのデジタル化と ICT の活用)</p> <p>著作権等により公開できないものを除き、収蔵品データベースをホームページで公開し、作家情報や作品解説などを掲載している。</p>	実施済 ／継続実施
	<p>(子育て世代へのプログラム)</p> <p>子育て世代向けに、親子で楽しめる関連ワークショップを実施している。</p>	実施済 ／継続実施
	<p>(美術館の魅力を知ってもらう取組)</p> <p>美術館へ足を運ぶきっかけ作りとして、ミュージアムコンサートを実施している。</p> <p>・ミュージアムコンサート実施回数 (R4 年度) … 美術館主催 3 回、市主催 1 回</p>	実施済 ／継続実施
	<p>(商業施設等への展開)</p> <p>令和3年度から市内商業施設で展覧会のパネル展示を行い、市民に身近な場所で PR を行っている。</p>	実施済 ／継続実施
地域との 連携	<p>(近隣図書館との連携)</p> <p>市立図書館で展覧会に関係するブックフェアを開催し、美術館に興味をもってもらおう試みを行った。</p>	実施済 ／継続実施
	<p>(交換展の開催)</p> <p>令和4年度は和泉市久保惣記念美術館との交換展を開催し、近隣他市の市民が大谷記念美術館を知り、興味を持っていただくきっかけとなった。</p>	R4 年度実施 ／完了
	<p>(近隣自治体等との連携)</p> <p>阪神間における美術館・博物館の連絡協議会に加盟し、情報交換会や研修会等に参加するなど近隣美術館等との連携を図っている。</p>	実施済 ／継続実施
	<p>(観光施策との連携)</p> <p>ポーロニャ国際絵本原画展の開催に際して、市内のギャラリーで構成する西宮ギャラリー連絡会と協力し、官・民のギャラリーがスタンプラリーを開催し、全市的に盛り上げた。</p>	実施済 ／継続実施

区分	取組内容	進捗状況 (R5.3 時点)
地域との 連携	<p>(観光施策との連携)</p> <p>令和4年度には、市の参加する「阪神間連携ブランド発信協議会」が実施する「阪神間モダニズム魅力体験イベント」や「阪神間モダニズム事務局」が実施する「デジタルスタンプラリー」に参加協力した。</p>	R4 年度実施 ／完了
	<p>(利用者・市民・地域との関係の改善)</p> <p>令和3年2月の日本博物館協会による「公益財団法人西宮市大谷記念美術館運営コンサルタント業務報告書」において、スコアが全国平均を下回っており早急な改善が必要との指摘があった「利用者・市民・地域との関係」については、改善取り組みの結果、令和4年度には平均を1ポイント上回るスコアとなった。</p>	改善済
市補助金 ／支出削減・収入確保	<p>(支出削減、収入確保等)</p> <p>市の補助金の増額が困難な状況であるので、企画展の回数の見直しや、テーマ性・切り口を工夫した館藏品展の開催など、事業規模を縮小しながら市民サービスを維持し集客面を考慮した運営に努めている。なお、事業運営にあたっては民間補助金等も活用している。</p>	R3 年度以降 改善 ／継続実施
	<p>(寄付金の活用)</p> <p>令和4年度は企業からの寄付金を活用し大谷記念美術館開館50周年特別展を開催した。また、同特別展と新収藏品展で寄付金を活用してそれぞれ各1回の無料開館日を設定し、サービス向上に努めた。</p> <p>・無料開館日入館者数 (R4 年度) …1,251 人</p>	R4 年度実施 ／完了
	<p>(料金体系の検討)</p> <p>令和3年度より企画展の入館料を1,000円から市外在住者1,200円(市内在住者は1,000円据え置き)に改定した。</p>	完了 ／継続実施
	<p>(入館者数及び有料入館率の向上)</p> <p>入館者数の向上に向け、SNSなどでの積極的な情報発信のほか、チラシ配架やポスター掲示の依頼範囲を広げるなど広報を強化している。有料入館率については、R5年度までの目標値60.6%(R1年度×1.1)を令和2年度以降達成している。</p> <p>・入館者数 44,188 人、有料入館率 68.8% (各 R4 年度)</p>	一部達成 ／継続実施